

八工探検隊 美術部に潜入!

吉田剛先生を徹底描画

夏休み初日の7月22日9時過ぎ、美術室。イーゼルをたててスタンバイ。美術部員7名と、新聞部から2名参戦してのデッサンが始まった。モデルは本校美術科の吉田剛先生だ。20分×5クールで、合計100分。集中した静けさの中、鉛筆を走らせる音が響く。皆の力作を披露します。

美術部顧問 吉田剛先生を徹底描画

どの吉田先生がイイ感じ?

直居 久姫 先生

【吉田先生評】
僕が思っていた以上に上手い。「八工で2番目に絵がうまい先生」の称号を贈ります。

西岡 愛深 さん (3-2)

【吉田先生評】
指でこすったりして優しい肌の質感が表現できています。髪の表現とのバランスが課題かな。

土井 夏海 さん (2-4)

【吉田先生評】
新聞部からのゲストチャレンジありがとう。密度のあるタッチとグレーが美しい。もっと時間が必要だったね。

山田 流衣 くん (1-4)

【吉田先生評】
正面特有の目の表情が印象的です。体もたくましく描いてくれてありがとう。

石崎 大翔 くん (1-5)

【吉田先生評】
力強く描けています。少し輪郭線の強さに頼りすぎたかな。

駒井 昂 くん (2-1)

【吉田先生評】
僕の思っている僕に一番近い雰囲気が出ている佳作です。

小林 蓮 くん (2-4)

【吉田先生評】
粗削りだけれど力強いタッチで素早く対象を捉えられています。ずいぶんうまくなったね。

上田 栄成 くん (1-4)

【吉田先生評】
穏やかな表情が良い雰囲気です。上の空間が余ってしまったのが残念。

岡田 大弘 くん (1-2)

【吉田先生評】
シャツの白さとのコントラストはGood。右利き特有の右上がりのタッチが目立つので、タッチに工夫があればなおGood。

デッサンを終えて、吉田先生にお話を伺った。
「鉛筆デッサンはシンプルな素材なので、手軽に始められる反面、ごまかしが効かない奥深さがある」とした上で、「モデルをよく観察できている作品や、時間がなくて慌てたであろう作品など、いろんなことを感じさせる魅力的な作品が揃った」と笑顔で作品に見入る。「今度はもっと絵になるモデルさんをお招きして、やりましょう」と締めくくりながら、ご自身の顔は「描きやすいけどあまり絵にならないんだよなあ・・・」とつぶやいておられた。

8月23、24日に行われたオープンキャンパスに合わせて、廊下で展示された美術部部員の力作たち。シュールな世界観の作品が並ぶ。↓

↑作品製作中の様子 真剣なまなざしでモデルを見つめる

真夏の廊下の展覧会